

見学日時:2016年10月7日

お世話になった方:赤石さま、吉木さま、津野さま

見学参加者:山田先生、古賀先生、土田先生、小西さん、高瀬、宮崎、八角、金子

施設概要:介護付有料老人ホーム(20戸)、ゆいま〜る食堂

周辺概況:小学校、町民プール、パークゴルフ場と隣接し、道路を挟んでむかいに町役場、消防署、図書館があり、町の中心部に位置している。

運営方針や理念:入居すると元気になれる場所を作る。介護型の施設を町の中心に置き、動けない方ほど町の中で生活できるようにする事で、見慣れた風景の中で部屋だけ変わって、というイメージで住み続けることができる。また、家族や近所の方、友人も来やすい環境なので、買い物をした時の立ち寄り先として自然に来てくれる人が多い。

・外観

周辺の街並みと揃えるような色合い、材料を使い、馴染みやすい設計が行われていた。また、このあたりには高い建物がないので、施設も部屋数が減ってしまうが平屋の設計としていた。外観から見ても施設らしさ、がなく町の中でそのままの生活が続けられる、という理念にとっても合っていた。

・ギャラリー

玄関に入ってすぐに大きな本棚と椅子、机が並んでいる。使われている家具は小学校で使われていたもので、木の温かいイメージと家具の懐かしいイメージが合わさって、とても落ち着く空間作りになっていた。また、スペースに余裕のある場所作りが行われており、食堂と合わせて多くて40人程入ることも可能なため、夏祭りなどの開催が行われている。



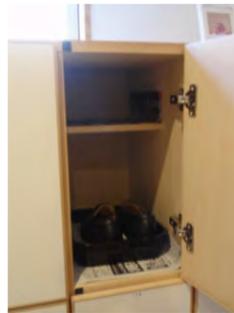
・食堂

大きな窓ガラスがぐるりと囲んでおり、外がとても感じられる空間になっていた。隣が小学校で、見学時も小学生が校舎の周りを走りまわっている様子が、室内からよく見えた。このように、お互い話すことがなくても、見る、見られるの関係があることで生まれるコミュニティもあり、居心地のよい場所作りだと感じられた。また、職員の方が食事を準備している様子も見られ、室内でのコミュニケーションも取りやすいと感じた。



・玄関

特注で靴箱を設置している。北海道では雪が降るため利用者の方の長靴を入れるため、通常の靴箱より高い設計になっている。雪の少ない地域ではあまり見られない設計で、とても面白いと思った。



・廊下

車椅子2台がすれ違っても余裕がある設計としている。もう少し狭めれば部屋を取ることも可能だったが、あえてこの設計にしている。突き当たりの窓から光が入り、明るく開放的な廊下になっていて、とても過ごしやすい空間になっていた。



・浴室

個浴と座浴のみ作られていて、機械浴は作られていない。できることは自分でやってもらうため、とお風呂は肩まで浸かった方がやはり気持ちがいいから。職員の方の少しの介助により、自立した生活を続けられることができ、日常のことが自分で行えるというのはとても大切なことだと感じた。



・機能訓練室 兼 食堂

広々とした空間で天井がとても高い一方で、寂しさはなく、明るく温かい空間になっていた。木材が多く使われており、全体の色合いが統一され、とても落ち着いていた。また、こちらでも棚や教卓など寄付されたものを家具として使っており、長年使い込まれているようだった。



・まとめ

町の中心部で暮らすということは、利用者の方にとってやはり重要なことだと感じた。日頃から町の人と顔を合わせられることや人間関係が変わらないことが住み続けることにおいて大切だと言える。ゆいま〜る厚沢部では周辺の住民も自由に出入りでき、一緒に施設を利用できるようにすることで、より入居者の住みやすさに繋がっていると考えられる。

・健康生きがいコーナー

天井が高く、高い窓からの陽がたっぷり入ってくる空間だった。ぼんやり下から眺めてみたが、とても居心地がよく、落ち着く空間になっていた。利用者の方や職員の方が通った時に、声をかけていただき、コミュニケーションが生まれやすい空間作りになっているのではないかと思います。



施設周辺のパークゴルフ場、プール、小学校

